

令和5年5月31日

東京都千代田区四番町5番地3  
科学技術振興機構（JST）  
Tel：03-5214-8404（広報課）  
URL <https://www.jst.go.jp>

## 経済安全保障重要技術育成プログラム（K Program）における 令和4年度第1回研究開発課題募集の新規採択課題の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、内閣府および文部科学省が定めた研究開発構想を受け、経済安全保障重要技術育成プログラム（K Program）における令和4年度第1回の研究開発課題募集における新規採択研究開発課題を決定しました。

K Programでは、中長期的に日本が国際社会において確固たる地位を確保し続ける上で不可欠な要素となる先端的な重要技術を育成するため、国が定めた研究開発ビジョンや研究開発構想に基づき、研究開発を実施します。JSTでは研究開発構想（プロジェクト型）ごとに任命した研究マネジメントを実施するプログラム・ディレクター（以下、PD）が、研究開発ビジョンの達成と研究開発構想の実現に向けて、研究開発課題の実施を指揮・監督します。実施に当たっては、研究開発課題提案の募集を行い、PDが外部有識者らの協力を得ながら選考を行います。

今回、令和4年度第1回として、研究開発構想（プロジェクト型）「災害・緊急時等に活用可能な小型無人機を含めた運航安全管理技術」においては、「運航安全管理技術」と「小型無人機技術」の2つの公募枠で募集を行いました。そのうち「小型無人機技術」について、9件の応募があり、書類選考と面接選考（事前評価）を実施した結果、1件の研究開発課題を「運航安全管理技術」に先行して採択しました（別紙1）。

今後、研究開発ビジョンの達成と研究開発構想の実現に向けて、より効果的・効率的な研究開発となるよう、採択された研究開発課題の研究代表者は、PDの指揮の下で研究開発の詳細計画の作り込み（提案した研究開発計画の見直しおよび具体化など）を行った上で研究開発を開始します。

詳細はK Programのウェブサイトをご覧ください。

URL：<https://www.jst.go.jp/k-program/>

### <添付資料>

別紙1：採択研究開発課題一覧

参考1：経済安全重要技術育成プログラムの事前評価における選考の観点

参考2：経済安全保障重要技術育成プログラムにおける研究開発課題募集の概要

### <お問い合わせ先>

科学技術振興機構 先端重要技術育成推進部

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7 九段センタービル

鈴木 至（スズキ イタル）

E-mail：[k-program\\_koubo\[at\]jst.go.jp](mailto:k-program_koubo@jst.go.jp)

※電子メールでお問い合わせください。

## 採択研究開発課題一覧

研究開発課題名	研究代表者（所属・役職）	研究開発概要
次世代固定翼型 VTOL機の開発（仮称）	佐部 浩太郎（エアロセンス株式会社・代表取締役社長）	災害・緊急時に活用できるよう飛行時間1.5時間以上、ペイロード10キログラム、1000メートル上空での飛行性能、防水などの耐候性を兼ね備えた性能の固定翼eVTOLの無人航空機を開発します。飛行制御やシステム設計、通信についても、型式認証の基準の信頼性を満たすように開発します。

※研究開発課題名は調整により変更になることがあります。

## 経済安全重要技術育成プログラムの事前評価における選考の観点

1. 研究開発ビジョンの達成および研究開発構想の実現に向けた達成目標の妥当性並びに多様な分野における研究成果活用の実現可能性
  2. 研究開発課題の達成目標に向けた実施内容の妥当性
    - ・ 研究開発項目・内容
    - ・ 実施体制
    - ・ 研究資金計画
    - ・ 安全管理措置の計画
- ※ 安全管理措置とは、研究開発に関する情報を適切に管理するための措置や、機微な情報に対する守秘義務履行のための必要な措置を言います。

## 経済安全保障重要技術育成プログラムにおける 研究開発課題募集の概要

### 1. 事業の趣旨

K P r o g r a mでは、中長期的に日本が国際社会において確固たる地位を確保し続ける上で不可欠な要素となる先端的な重要技術について、経済安全保障推進会議および統合イノベーション戦略推進会議が定めた研究開発ビジョンの実現に向け、内閣府および文部科学省が定めた研究開発構想に基づき、研究開発を実施します。

また、K P r o g r a mは経済安全保障推進法における特定重要技術の研究開発の促進およびその成果の適切な活用を目的とする事業に位置付けられています。

### 2. 事業の特徴

研究開発構想には、重要技術の獲得を目指す比較的大規模な研究開発プロジェクトの研究開発構想（プロジェクト型）と、重要技術となり得る要素技術や研究開発プロジェクトの高度化に資する要素技術などの獲得を目指す個別研究の研究開発構想（個別研究型）があります。

研究開発構想（プロジェクト型）に関してはプログラム・ディレクター（P D）が、研究開発構想（個別研究型）に関してはプログラム・オフィサー（P O）が、研究開発ビジョンの達成および研究開発構想の実現に向けて、研究開発課題の実施を指揮・監督します。また、関係府省との情報共有や意見交換の場などとして協議会が設置される予定です。

### 3. 募集期間

令和4年12月5日（月）～令和5年2月7日（火）正午

### 4. 今回J S Tが研究開発課題を募集する研究開発構想（プロジェクト型）

- (1) 「無人機技術を用いた効率的かつ機動的な自律型無人探査機（A U V）による海洋観測・調査システムの構築」

P D：高木 健（東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授）

- (2) 「災害・緊急時等に活用可能な小型無人機を含めた運航安全管理技術」

P D：大林 茂（東北大学 流体科学研究所 教授）

なお、(2)の研究開発構想では「運航安全管理技術」と「小型無人機技術」の2つの公募枠に分けて募集をしております。

以上